

日田商工会議所 第4回 サマertime委員会 議事録

1. 日 時 令和8年7月31日（金） 9:50～10:25

2. 場 所 商工会議所 議員サロン

3. 出 席 者

（会頭）瀬戸 亨一郎

（委員長）高橋 進太郎

（担当副会頭）園田 匠

（副委員長）浦中 直也

（委員）長谷川 久

（事務局）大石 昭典、伊藤 宏、櫻木 成実

4. 議事経過

1) 委員長挨拶

・ 高橋委員長より、連日の記録的な猛暑について言及があった。日田市でも気温40度を超える日が確認されるなど、熱中症のリスクが極めて高い状況にあることを強調。「自分を守る、仲間を守る」という意識を改めて確認し、各社の取り組みを地域全体へ広げていきたいとの背景が説明された。

2) 議題

①副委員長選任について

・ 事務局より、現副委員長の浦中直也委員（三和酒類株式会社）が人事異動により8月1日付で本社へ帰任する旨が報告された。

・ 議論詳細：高橋委員長より、後任の三和酒類株式会社日田蒸留所所長となる首藤氏を副委員長として選任したい旨の提案があった。浦中委員からは、既に首藤氏への引き継ぎを済ませており、委員会活動の継続性についても理解を得ているとの補足があった。

・ 決定事項：全会一致で首藤氏の副委員長就任が承認された。

②日田市内近況報告（別紙 参考資料①）

・ 瀬戸会頭より、日田市シルバー人材センターの事例が紹介された。

・ 議論詳細：同センターでは、特に過酷な草刈り作業等において、熱中症対策として作業開始時間を通常より1時間前倒しし、午前7時開始とする措置を講じている。

・ 具体的数値：早朝作業に伴う近隣住民への騒音配慮として、対象エリアの住民に対し、事前に「早朝作業のお知らせ」チラシを配布している。

・ プロセスの記録：「騒音クレームの有無」について懸念が示されたが、丁寧な事前周知を行っている結果、大きなトラブルなく運用されており、市民の理解も得られつつあるとの現状が共有された。

③大手建設業近況報告（別紙 参考資料②）

- ・ 高橋委員長より、株式会社大林組の「サマータイムチャレンジ」について、配布資料に基づき説明があった。
- ・ 具体的数値：江戸川水閘門改築（Ⅰ期）工事現場において、梅雨明け後の7月13日から8月7日までの期間、作業時間を「7時30分～13時30分」に大幅変更し、最も気温が上がる午後の作業を完全に回避している。
- ・ 議論詳細：高橋委員長より、大手企業がこれほど大胆な時間シフト（13時30分終了）を断行することで、地元建設業者にとっても対策を導入しやすい「空気感」が醸成されるとの指摘があった。また、同現場では「アイススラリー冷蔵庫」の設置や、ウェアラブル端末「GenVital」による作業員の心拍数・位置情報のリアルタイム監視など、最新設備を併用していることも紹介された。

④いいちこ日田蒸溜所 サマータイム報告

- ・ 浦中副委員長より、明日8月1日から開始するテスト導入計画について詳細な説明があった。
- ・ 具体的数値：2026年8月1日から12日までの12日間、製造および保全部門を対象に、始業を1時間早め「7:00～16:00」勤務とする。昨年度、日田市は猛暑日が62日と歴代最多を記録し、工場内の製麹エリア等はWBGT（暑さ指数）が31℃以上の「危険」レベルに達していた。
- ・ 議論詳細：浦中副委員長より、昨年度は搬送者はなかったものの、体調不良による早退者が数名発生したことが課題であったと述べられた。また、社内アンケートでは、若手社員から「生活リズムが急に変わることに不安」や「早起きが苦手」といったネガティブな反応も一部出ていることが率直に報告された。
- ・ 決定事項：テスト終了後、生産効率、残業状況、電力使用量に加え、従業員の満足度を詳細に調査し、次回の委員会で報告することを確認した。

⑤委員会内サマータイム計画 進捗状況

- ・ 長谷川委員（サッポロビール）：全社員約70名を対象としたアンケートを実施。約4割がサマータイムに賛成。特に屋外や空調のない環境（点検・集荷・運搬等）の部署でニーズが高い。一方で、3交代制の製造ラインでは一律の導入が難しく、間接部門のみの実施にするか等の調整が必要との課題が示された。

6. その他協議事項

- ・ 園田副会長および瀬戸会長より、各社が実施するこれらの先進的な取り組みを単なる個別の企業努力で終わらせず、マスコミを通じて対外的に広く発信すべきとの提案があった。
- ・ 議論詳細：単一の企業紹介ではなく、「日田市の複数企業が連携して、夏季の健康管理と安全な職場づくりのためのテスト導入を一斉に開始した」という文脈で周知を行う。こ

れにより、日田市の企業が働く人を大切にしているという姿勢を地域内外にアピールすることもできる。

- ・ 地域社会との共生：早朝作業に伴う音の問題については、マスコミや広報を通じて「この記録的な暑さから働く人を守るための時限的な措置である」ことを周知できれば良い。地域全体に対して「お互い様」という協力体制を呼びかけることで、社会的な理解を深め、近隣トラブルを未然に防ぐ体制を築くべきという結論に達した。

⑦今後の取り組み

- ・ 周知活動の展開：事務局において、日田市役所記者クラブへ資料提供を行い、本委員会の活動内容および参画各社のテスト導入について広報活動を行う。
- ・ 市内企業への調査：議員事業所である市内企業約 70 社を対象に、夏場の働き方改革に係るアンケート調査を実施する。
- ・ 目的と検証：調査結果を通じて市内の実情を把握し、他社が参考にできる「日田型モデル」の構築を目指す。次回の委員会（8 月下旬予定）において、いいちこ日田蒸溜所をはじめとする各社のテスト導入結果とあわせて、これらのアンケート速報値を共有し、次年度以降に向けた課題を整理することを確認した。

3) 閉会（記録終了）